

第75回北摂小児科医会プログラム

日時：平成25年12月14日（土）午後3時

場所：公立学校共済組合 近畿中央病院 講堂

〒664-8533 兵庫県伊丹市車塚3丁目1番地

TEL：072-781-3712（代表）

第 75 回北摂小児科医会 プログラム

日時：平成 25 年 12 月 14 日（土）午後 3 時

場所：公立学校共済組合 近畿中央病院 講堂

〒664-8533 兵庫県伊丹市車塚 3-1 TEL：072-871-3712

◇話題提供(15:00～15:10)

「成長ホルモン製剤(ノルディトロピン) 関連情報」 ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

◇一般演題(15:10～16:00)

前半の部 座長 大西 寿和 先生（公立学校共済組合 近畿中央病院 小児科）

1) 『抗菌薬投与後に下痢、紫斑および血便を呈した 7 か月女児』

箕面市立病院 小児科

○杉辺英世、溝口好美、梶田聡実、奥山直美、武鑑真司、東 純史、木島衣理、金野 浩
下辻常介、山本威久

【症例】 7 か月、女児【主訴】 血便、紫斑【現病歴】 皮膚感染症に対して処方されたセフェム系抗菌薬を内服後から 3 週間ほど続く下痢、体重減少を認めた。血便、四肢の紫斑も出現し、精査目的で入院となった。【経過】 血液検査で PT-INR は 16.4、APTT は 85.9 秒と著明に延長あり、ビタミン K2 投与後にそれらが劇的に改善したためビタミン K 欠乏症と診断した。【結語】 遷延する下痢および低栄養状態に続発したビタミン K 欠乏症を経験した。

2) 『経母乳感作が考えられた新生児・乳児消化管アレルギーの 1 例』

市立伊丹病院 小児科

○堀田将志、山口智裕、松村梨紗、神尾範子、中里寿美子、藪田玲子、有田耕司、三木和典

【症例】 2 ヶ月、男児【主訴】 発熱 咳嗽、水様性下痢【現病歴】 気管支炎の診断で入院し、抗生剤による治療を開始。気管支炎は改善するも、水様便が頻回となり抗生剤を中止したが、下痢の改善みられず、母乳を中止したところ改善した。経口栄養として EDP を低濃度・少量から開始。症状の悪化なく増量できた。提出した ALST の結果から、牛乳成分による新生児・乳児消化管アレルギーの診断となり、母の乳製品除去により母乳再開できた。

3) 『IgA 腎症と骨髄異形成症候群を合併した一例』

公立学校共済組合 近畿中央病院小児科¹⁾、大阪大学大学院医学系研究科小児科学²⁾

摂南総合病院小児科³⁾

○戸井洋子¹⁾、大西寿和¹⁾、橋井佳子²⁾、北岡太一²⁾、平井治彦³⁾、大藪恵一²⁾

【症例】 7 歳女児【主訴】 肉眼的血尿【現病歴および経過】 肉眼的血尿を認め当科外来に紹介。IgA 腎症を疑い経過観察していたが、再発を繰り返し、また初診時に認められた血小板減少に白血球減少を伴う状態になったため、大阪大学小児科に転院。腎生検および骨髄検査にて IgA 腎症、骨髄異形成症候群と診断され治療を開始され、現在両疾患とも安定している。【結語】 IgA 腎症の発症を契機に発見された骨髄異型性症候群の症例を経験した。

4) 『てんかんとして診療されていた偽性副甲状腺機能低下症の男児例』

公立学校共済組合 近畿中央病院小児科
○大西寿和、戸井洋子

偽性副甲状腺機能低下症は、高リン血症を伴う低カルシウム血症、それに依るあるいは依らない神経症状、Albright 骨異栄養症、内分泌異常など多彩な所見を呈す。新生児期はTSH高値、それ以後は痙攣、発達遅滞、肥満、短軀などが診療の契機だが、診断に時間を要した症例報告は多い。今回は診断の pitfall を振り返る。

5) 『ビタミンD欠乏あるいは低下症と診断した小児における下肢の骨変形と血中Cr値の関係』

箕面市立病院小児科¹⁾、大阪府立母子保健総合医療センター腎・代謝科²⁾、大阪大学大学院医学系研究科小児科学³⁾、大阪発達総合医療センター⁴⁾
○武鍵真司¹⁾、山本威久¹⁾、山本勝輔²⁾、窪田拓生³⁾、北岡太一³⁾、里村憲一²⁾、廣島和夫⁴⁾ 大藪恵一³⁾

【はじめに】成人ではビタミンD欠乏により2型筋線維が減少するという報告がある。今回我々はビタミンD欠乏/低下症と診断した小児において、骨格筋量の代用マーカーとされる血中Cr値と骨変形の関係について検討したので報告する。【対象と方法】対象は血中25OHD値が30ng/ml未満の乳幼児22名。検討項目は食事制限、外出制限の有無、血中Ca, P, Cr, ALP, intact PTH, 25OHD, 1,25(OH)₂D値、FECa値、下肢骨Xp。血中Cr値を骨格筋量の指標とし、年齢別基準値との比(%Cr)を用いて解析した。下肢骨Xpでmetaphyseal-diaphyseal angle (MDA)を測定し、12度以上を骨変形ありとした。【結果】骨変形と有意な関連があったものは%Cr値のみであった(p<0.05)。治療により%Cr値は59か109に有意に改善し(p<0.01, n=5)、MDA値も14.4から2.9に有意に改善した(p<0.01, n=4)。【考察】ビタミンD欠乏の小児において、骨格筋量の減少が骨変形と関連する可能性が示唆された。



----- コーヒータイム -----
(16:00~16:20)



◇総会 (16:20~16:30)

◇特別講演(16:30~17:30)

座長 山本 威久 先生（箕面市立病院 小児科）

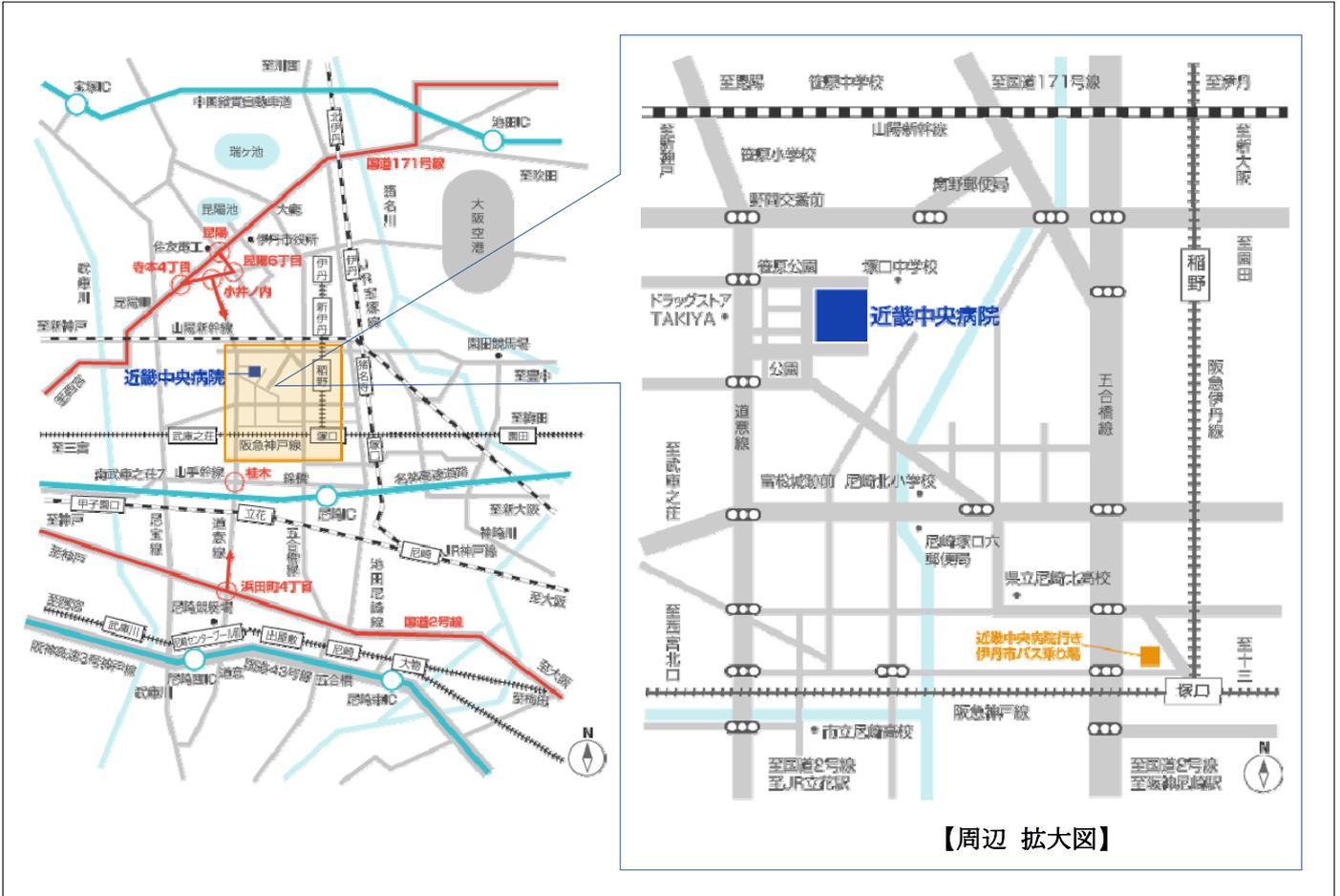
『小児の画像診断 —単純X線写真の読み方・有用性を中心に—』

演者 大阪府立母子保健総合医療センター 放射線科 部長 西川 正則 先生

単純X線写真はもっとも多く施行される画像診断法であり、また、多くの場合、まず最初に施行される画像診断法でもある。単純X線写真を正しく読影し、有効に活用することができれば、診断の次のステップを決めたり、早期に正しい診断に至ることができ、ひいては迅速で適切な治療に結びつくことにもなると思われる。

今回の講演では、単純X線写真の読影に役立つシルエットサインの原理をはじめとして、小児特有の正常変異、これに関連した小児の代表的な疾患の単純X線写真における所見のとらえかたや限界などについて述べる。

会場までの案内地図



【周辺 拡大図】

公共交通機関をご利用の方



- ◆ 阪急神戸線 塚口駅（普通・急行が停車します）
 - ・北改札口より徒歩 1分。
 - ・イカリスーパー前から伊丹市営バスが出ています。
 - ・山田行き、昆陽里行き、阪急伊丹行の近畿中央病院経由にお乗りください。
 - ・「近畿中央病院前」にて下車。（所要時間 10分程度）
- ◆ 阪急伊丹線 伊丹駅
 - ・北側改札口から徒歩 1分。
 - ・伊丹市営バス「5番乗り場」よりバスが出ています。
 - ・近畿中央病院前経由線（34系統）にお乗りください。
 - ・「近畿中央病院前」にて下車。（所要時間 25分程度）

お車をご利用の方



- ◆ 国道 43 号線から道意交差点より北へ約 5.5km
- ◆ 国道 2 号線から尼崎南警察署（浜田町 4 丁目交差点）より、北へ約 4km
- ◆ 国道 171 号線から尼宝線を南に約 2.5km、五合橋線を南に約 4km
- ◆ 名神尼崎インターから北側を出て、五合橋線・道意線を北へ約 3km